広告人の書棚から

個性的な広告人はどんな本を読んでいるのでしょうか。
愛読書から推薦本まで、テーマやジャンルを問わずどんどん紹介していきます。
気になった本があれば、書店やネットを覗いてみてください。
きっといい刺激になると思います。

今回の紹介・推薦人　株式会社マッキャンエリクソン　中村 猪佐武

命を懸けなければ、書けない本。

命を懸けてなければ、書けない本がある。
この本は、そんな本のひとつです。
だからこそ、年齢とか職業とか性別とか関係なく、人間として読んでほしい。
そして、ひとりでも多くの人がヒロが挑むALSとの闘いに参加してくれることを、心から願っています。

『99%ありがとう
ALSにも奪えないもの』
藤田正裕 著 <ポプラ社>

藤田正裕：1979年東京生まれ。愛称はヒロ。幼少期は父親の仕事の関係でアメリカ、スイス、イギリスなどで過ごす。日本に帰国し国立の中学校に転入。高校は東京のアメリカンスクール、ハワイの大学に進学した。卒業後はハワイのシェラトンホテルでコンシェルジュを務めたのち、2004年に日本に帰国し、マッキャンエリクソンに入社。同社プランニング局で市場開発、PR/インフルエンサーマーケティング、日本コカ・コーラのコカ・コーラ、ファンタ、スプライト、グラソービタミンウオーター、illy、Zippo、Gap、Reebok、日本クラフトフーズ（現モンデリーズ）のストライド等のブランド・コミュニケーション戦略の企画・立案を担当。プランニングディレクターとして活躍していた2010年11月、難病である筋萎縮性側索硬化症（ALS）と診断される。翌年3月から車椅子生活に入り、現在は、顔と左手の人差し指しか動かない。2013年1月には気管切開し声を失いながらも、視線とまばたきで操作するパソコンのアイトラッキングシステム（視線伝達機器）を使用し、週一出社と在宅勤務で仕事を続けている。また、難病ALSの認知を高め、治療法を確立、そして、患者のコミュニケーションにまつわる医療政策の改革を訴えるため一般社団法人END ALSを立ち上げ、ブログなどを含むメディアを通じてメッセージを発信している。

ブログ http://blog.honeyee.com/hfujita/　Facebook http://www.facebook.com/endalswithhiro
一般社団法人END ALS　http://end-als.com

＊ALS（筋萎縮性側索硬化症）
感覚や知能ははっきりしたまま、次第に体中の筋肉が痩せ自由がきかなくなる難病で、原因も治療法も分かっていない。呼吸に必要な筋肉も弱っていくため余命は3～5年と言われている。誰がいつなってもおかしくない、現在、日本の患者数は9000人。

JAAA REPORTS

Japan Advertising Agencies Association

平成26年8月1日発行 毎月1回1日発行 通巻696号
一般社団法人日本広告業協会 2014 No.696

8

特集『伸長するオンライン動画広告マーケット』